

令和 7 年度

# 不登校支援の現状と課題について

豊橋市教育委員会 学校教育課

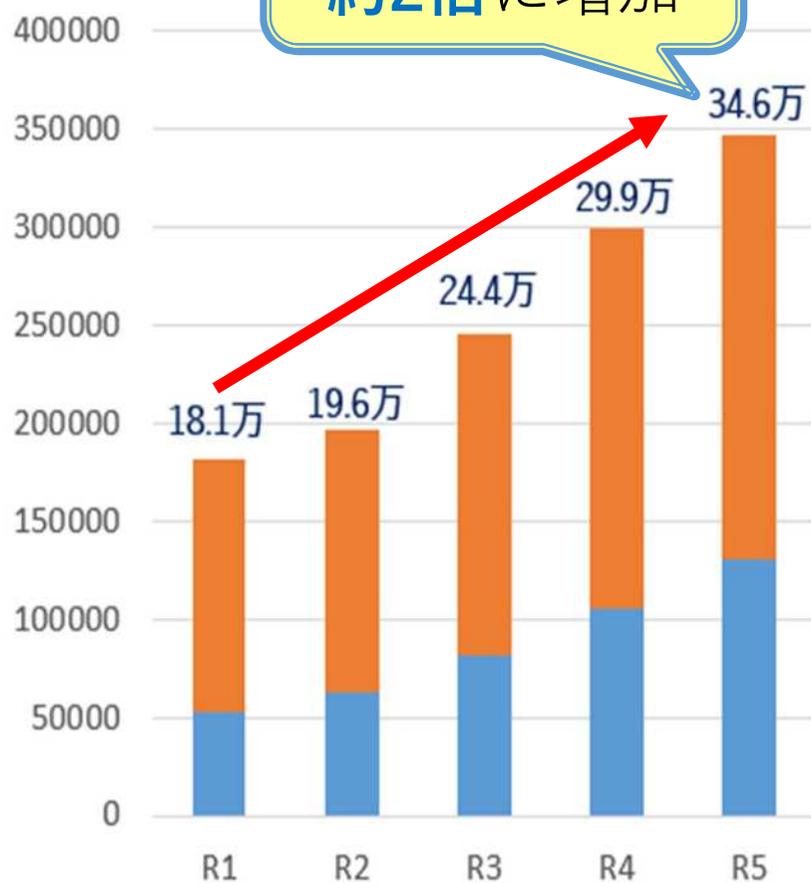
# 目次

- 1 不登校児童生徒数の推移
- 2 豊橋市における取り組みの成果と課題
- 3 不登校支援の今後の方向性

# 1 不登校児童生徒数の推移

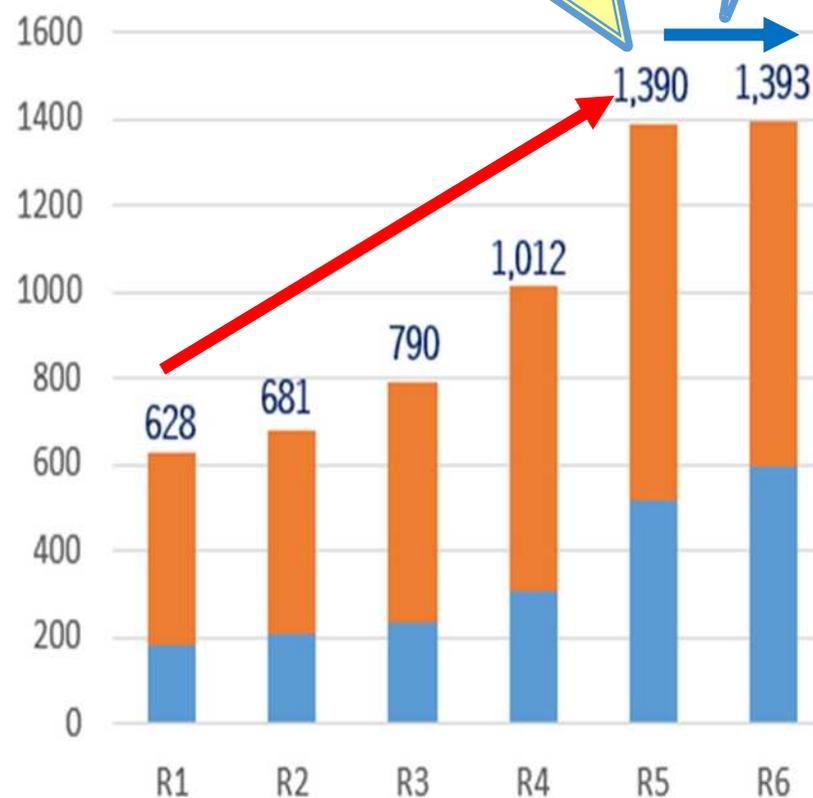
## (1) 小中学校合計

全国



4年間で  
約2倍に増加

豊橋市



4年間で  
約2.2倍に増加

停滞

■ 小学校 ■ 中学校

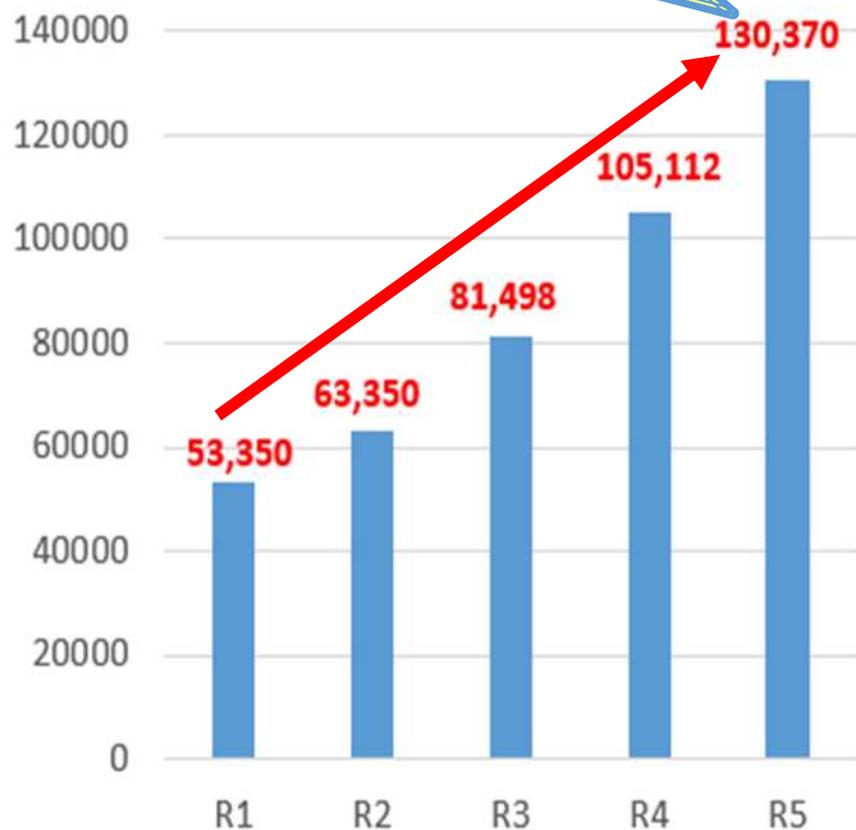
■ 小学校 ■ 中学校

# 1 不登校児童生徒数の推移

## (2) 小学校

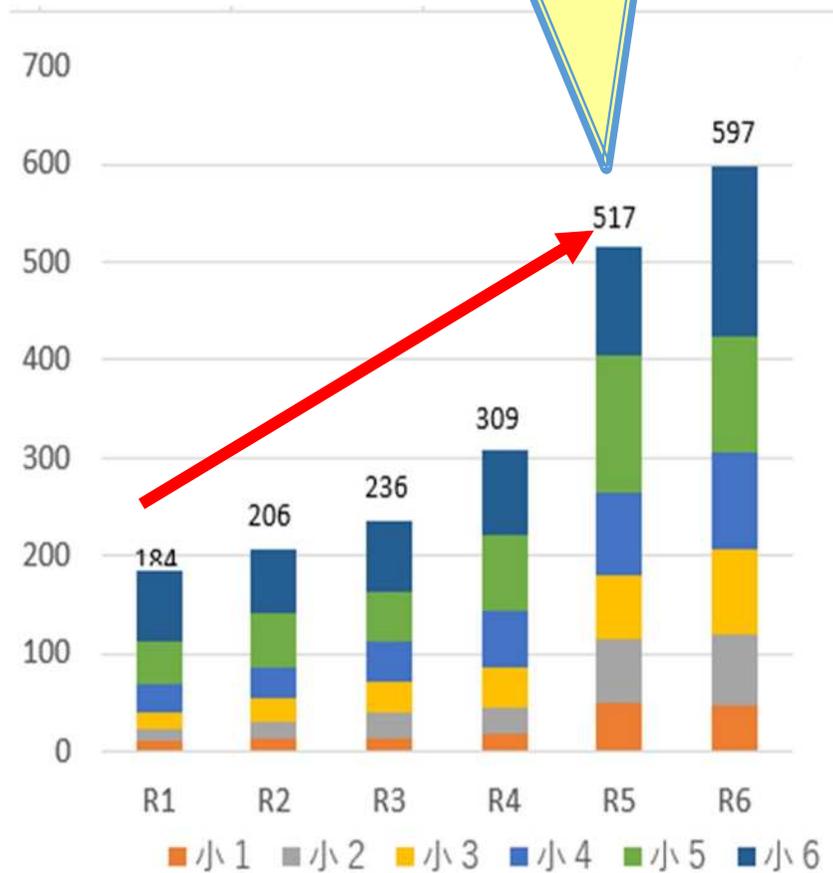
全国

4年間で  
約2.5倍に増加



豊橋市

4年間で  
約3倍に増加

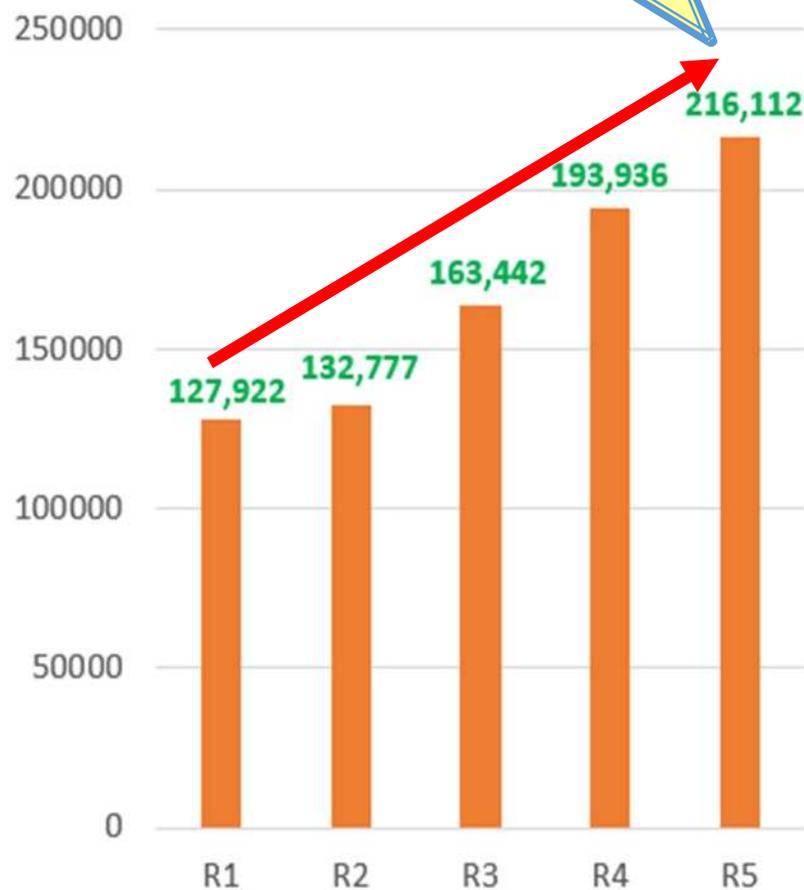


# 1 不登校児童生徒数の推移

## (3) 中学校

全国

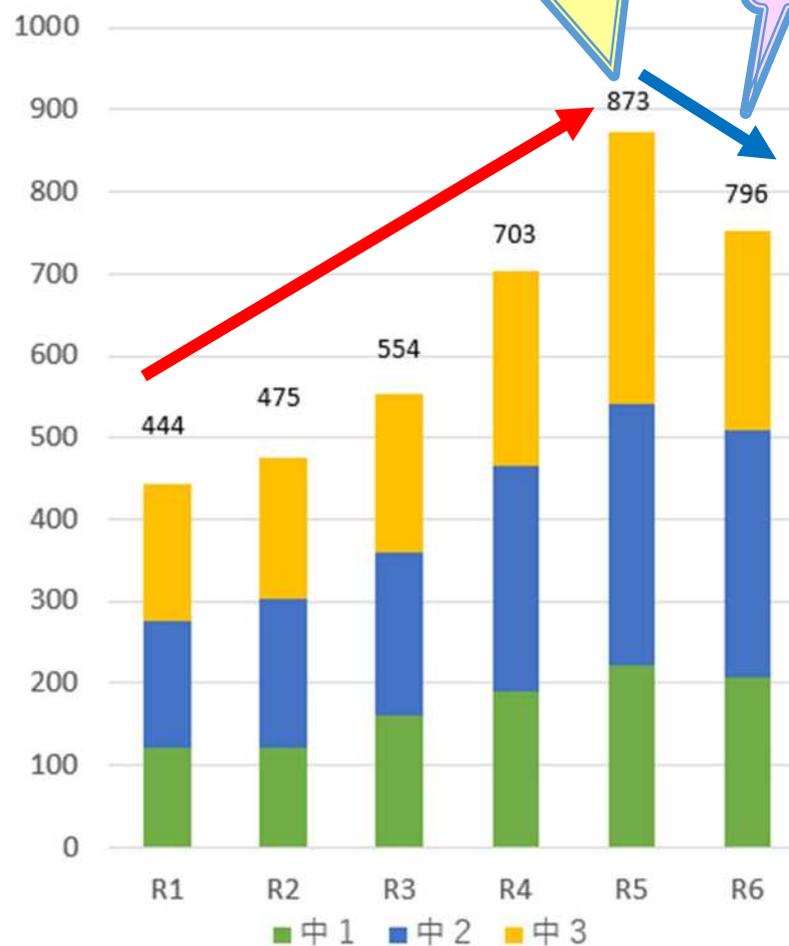
4年間で  
約1.7倍に増加



豊橋市

4年間で  
約2倍に増加

減少



原則、**学年が上がる**ごとに  
不登校者数は**増加**

# 1 不登校児童生徒数の推移

## (4) 豊橋市における**学年ごとの年次推移**

年度 \ 学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	不登校児童数	小学校不登校率	不登校生徒数	中学校不登校率
R元	11	12	17	28	44	72	120	155	169	184	0.89	444	4.29
R2	13	18	23	32	56	64	121	183	171	206	1	475	4.63
R3	12	27	32	42	50	73	161	198	195	236	1.15	554	5.33
R4	19	26	41	57	77	89	190	274	239	309	1.6	703	6.7
R5	50	65	64	86	139	113	222	319	332	517	2.6	873	8.5
R6	48	71	88	98	119	173	208	301	287	597	3.1	796	7.7
うち外国人	13	22	10	15	19	22	27	41	35	101	8.8	103	16

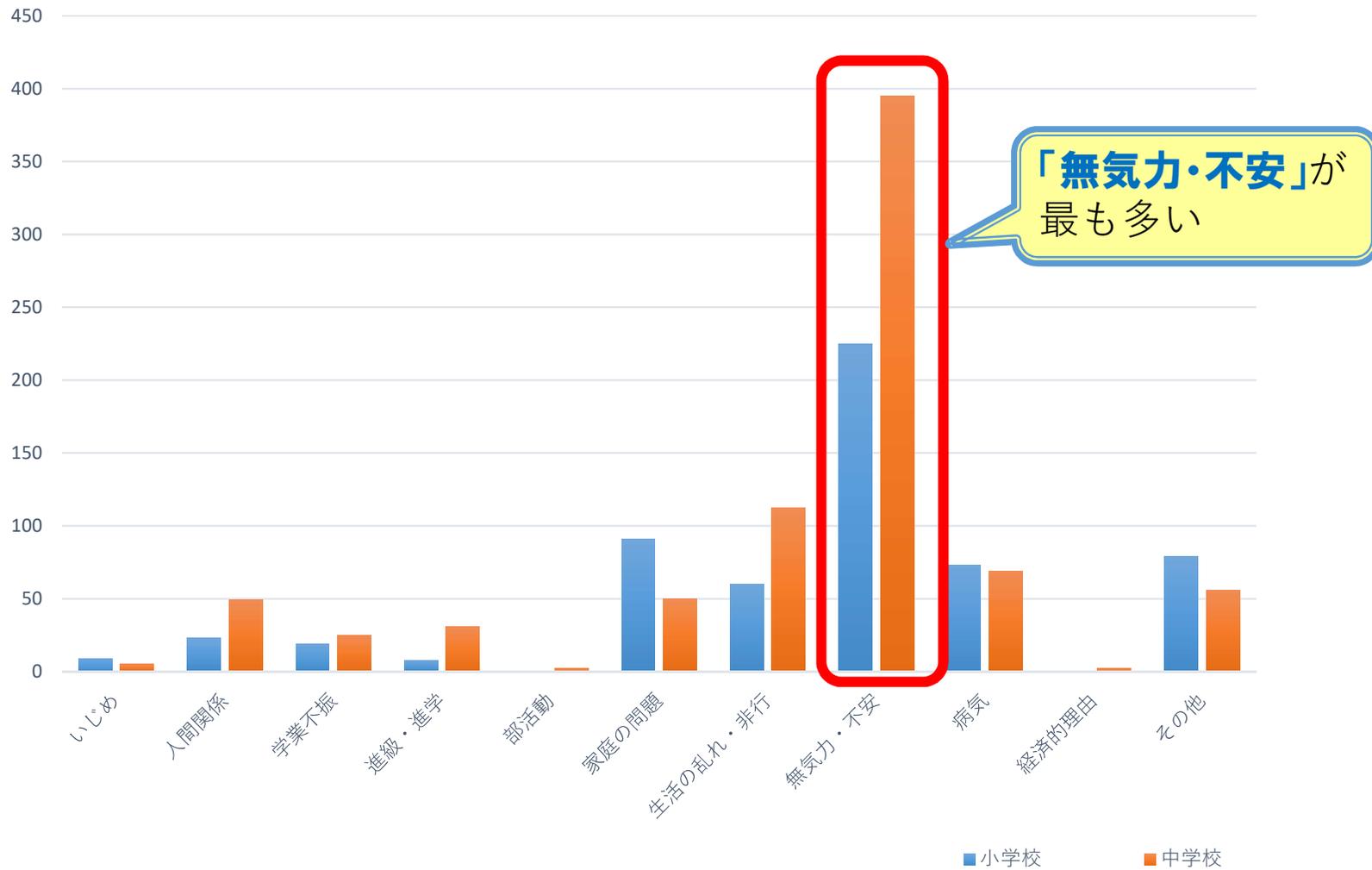
R5 から不登校の  
**低年齢化**が目立つ

R6 の**中3のみ**  
不登校者数が**減少**

# 1 不登校児童生徒数の推移

## (5) 豊橋市における不登校の要因

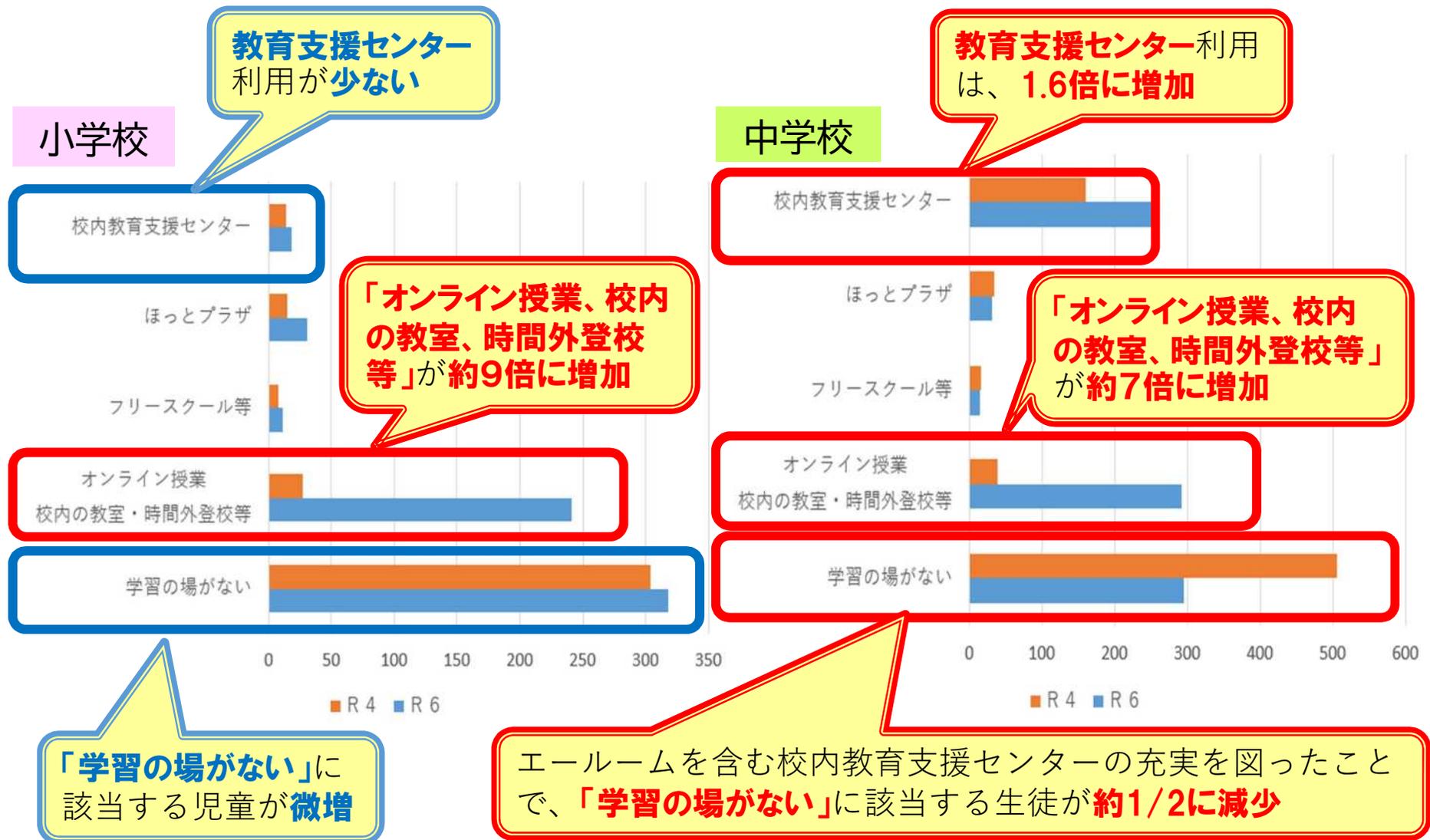
学校が、子どもや保護者等からの聞き取りをもとに**総合的に判断した要因**



「無気力・不安」が最も多い

# 1 不登校児童生徒数の推移

## (6) 豊橋市の不登校児童生徒が主に利用している施設等



# 目次

1 不登校児童生徒数の推移

2 豊橋市における取り組みの成果と課題

3 不登校支援の今後の方向性

## 2 豊橋市における取り組みの成果と課題

### (1) 校内教育支援センターの設置

- 小学校 ... 5校 / 52校中
- 中学校 ... 22校 / 22校中

- ・教室に行きづらさを感じている児童生徒のための校内施設
- ・教員1名常駐
- ・自主学習、オンライン学習、読書、レクレーション等を行う
- ・登下校時間は柔軟に対応

【成果】・不登校児童生徒の欠席数が減少した

- ・学校にいる時間が増加した
- ・一部の授業について、教室参加しやすくなった

【課題】・教員不足のため設置できていない小学校が多い

- ・教員1名の運営では、利用者増加と子どものニーズに対応できない

## 2 豊橋市における取り組みの成果と課題

### (2) 生活サポート非常勤講師(市費)の配置

不登校児童生徒に教員が対応する時間をつくるための非常勤講師  
(16時間/週)

- 小学校 ... 8人 + (県費児童生徒支援加配2名) = 10名/52校中
- 中学校 ... 7人 + (県費児童生徒支援加配15名) = 22名/22校中

【成果】・中学校では人的支援により、各学校の実情に合わせた校内教育支援センターの運営ができるようになった  
・小学校では、相談室登校や職員室登校の児童対応が丁寧に行えるようになった

【課題】・校内教育支援センター開設を望むすべての小学校へ配置ができていない  
・市費非常勤講師の配置が校内教育支援センター設置につながっていない小学校が一部ある

## 2 豊橋市における取り組みの成果と課題

### (3)「ほっとプラザ」(校外教育支援センター)の設置

- ・学校に行きづらさを感じている児童生徒のための校外施設
- ・相談員2名+フレンド2名常駐
- ・全小中学生が利用可
- ・午前:学習、午後:プラザ特有活動
- ・10:00~15:00

- ほっとプラザ中央(愛大前) ... R6:25名利用
- ほっとプラザ東(視聴覚教育センター) ... R6:20名利用
- ほっとプラザ西(青少年センター) ... R6:16名利用

【成果】・登室することで出席扱いとなるため、不登校児童生徒の欠席数が減少した

- ・相談員(大人)、仲間(子ども)との関わりにより、社会人として必要なコミュニケーション能力が向上している

【課題】・市内3か所のため、居住地によっては利用しにくい

- ・小1~中3まで利用可能なため、指導が難しい

## 2 豊橋市における取り組みの成果と課題

### (4)「エールーム」(校内・校外教育支援センター)の設置

- ・教室・学校に行きづらさを感じている児童生徒のための校内施設
- ・教員1名＋相談員1名常駐
- ・全小中学生が利用可
- ・登校時刻や活動内容は、原則自分で決める

- 南部中エールーム(南地区) ... R6:47名利用
- 青陵中エールーム(北地区) ... R6:34名利用
- 二川中エールーム(東地区) ... R7設置
- 吉田方中エールーム(西地区) ... R7設置

【成果】・2名(教員＋市費相談員)で運営し、子どものニーズに合わせた支援を行っているため、**従来の校内教育支援センターよりも、利用者が多く、欠席数も少ない**

【課題】・設置中学校区外の小中学生にとっては、知らない中学校ということに**抵抗感をもっている子どももいる**  
・通学方法や距離の問題で**通いにくさを感じている**

## 2 豊橋市における取り組みの成果と課題

### (5) フリースクール等との連携

#### ○ フリースクール等への登校を出席扱いへ

- ・出席扱いの可否は、校長判断
- ・市内4か所の施設は、市教委が認定

#### ○ 学校とフリースクール等との情報共有

- ・双方の教育参観
- ・子どものがんばりや困り感の共有

【成果】・個々の困り感に寄り添った支援ができている

【課題】・利用しているフリースクール等が、個々によって違うため、施設状況把握や情報交換に時間や労力がかかる

## 2 豊橋市における取り組みの成果と課題

### (6) 豊橋版GIGAスクール(リモート学習)の充実

#### ○ 授業のオンライン配信

- ・本人、保護者の要望に応じて、教室以外でも授業が参観可能に

#### ○ Aiドリルの活用

- ・自分のペースで基礎基本の学習に取り組める

【成果】・リモート学習を活用する不登校児童生徒が増加

【課題】・授業の配信のみで、双方向の参加になっていない  
オンライン配信が多い

- ・Aiドリルが旧式で魅力に欠けるため、子どもたちが自主的に取り組めない

## 2 豊橋市における取り組みの成果と課題

### (7) 幼稚園・保育園・こども園との連携

- 小学校教諭・保育士による双方の教育参観
  - ・幼児教育と小学校教育の共通理解
- 園児と児童の交流
  - ・生活科交流、行事等参観(交流)
- とよはし版スタートカリキュラム
  - ・架け橋期(年長児から小1の半年間)のカリキュラム活用

【成果】・幼稚園・保育園・こども園から小学校入学へ、**なだらかにつながる環境**が整ってきた

【課題】・入学児童が多数の幼稚園・保育園・こども園に在籍しているため、情報交換等に**時間や労力がかかる**

## 2 豊橋市における取り組みの成果と課題

### (8) 研修等による教職員の資質・能力の向上

- 生活サポート主任会
- 不登校対策推進協議会
- 児童生徒理解講座
- 「つながり早見表」の活用

【成果】・大学教授や臨床心理士等からの講話を多くの教職員が聞いたり、情報交換を行ったりすることで、**子ども理解や支援などの資質・能力の向上**につながっている

【課題】・不登校の要因が複雑化・多様化してきているため、**今以上に専門的な資質能力が必要**になってきている

# 目次

- 1 不登校児童生徒数の推移
- 2 豊橋市における取り組みの成果と課題
- 3 不登校支援の今後の方向性

### 3 不登校支援の今後の方向性

#### (1) あたたかい学級を基盤とした教職員の資質能力の向上

##### ○ 学級経営力向上研修

- ・子どもの居場所となるあたたかい学級づくり研修を、基本研修(若手教員)や夏季研修で実施

##### ○ 授業力向上研修

- ・子どもが楽しみにする授業づくり研修の充実を図ると共に、問題解決的な授業を参観する機会を増やす

#### (2) 幼稚園・保育園・こども園との連携強化

##### ○ 幼稚園・保育園・こども園の情報交換

- ・年長児を中心とした情報交換や授業参観を継続

##### ○ スタートカリキュラムの見直し

- ・年長児から小1までの架け橋期におけるカリキュラムを見直し(半年→2年間)、小学校への不適應解消を図る

### 3 不登校支援の今後の方向性

#### (3) 校内教育支援センターを全小中学校に設置

- 児童生徒支援加配(県費)又は生活サポート非常勤講師(市費)を全小中学校へ配置し、校内教育支援センター設置へのサポートを行う

#### (4) 「エールーム」を全中学校に設置

- 各学校にすでに設置している校内教育支援センターの運営をベースに、常駐の相談員を配置し、生活サポート主任と連携を図った、よりきめ細やかなサポートを行う。

### 3 不登校支援の今後の方向性

#### (5) 地域や民間のサポート力を活用

##### ○ フリースクール等との連携強化

- ・積極的に出席扱いにするフリースクール等登録システム
- ・市教委主催のフリースクール等情報交換会の実施

##### ○ 生涯学習センターを活用した「地域の学び場づくり」

- ・引きこもりがちな子どもが安心して一歩を踏み出す場
- ・子どもへの支援は地域人材を活用

#### (6) 豊橋版GIGAスクールの強化

##### ○ 双方向の授業オンライン配信

- ・授業に参加できる授業オンライン配信を、不登校児童生徒と保護者に積極的に提案

##### ○ Aiドリルの積極的活用

- ・魅力的なAiドリルを導入し、個別最適な学習につなげる

# 学校や教室へ行きづらさを感じる子どもへの支援強化 ～社会で自立して生きていける子どもの育成～

※多様な学び場を設置することで、子どもたちが自分にあった学び場を選択できる学習環境を整える

【卒業後】

【進学】

新たなステージにチャレンジし、多くのスキルを身に付けようとする子

【就職・アルバイト】

自ら社会に踏み出し活躍しようと動き出す子

